

三浦綾子 略史 作品概略

主は、あなたの地境に平和を置き、最良の小麦であなたを満たされる。主は地に命令を送られる。

そのみことばはすみやかに走る。主は羊毛のように雪を降らせ、灰のように霜をまかれる。

主は氷をパンくずのように投げつける。だれがその寒さに耐ええようか。

主が、みことばを送って、これらを溶かし、ご自分の風を吹かせると、水は流れる。

主はヤコブには、みことばをイスラエルには、おきてとさばきを告げられる。

詩篇 147 篇 14～19 節

三浦綾子作品の概略

神が日本にお与えになったクリスチャン作家・三浦綾子。全作品は80数冊に及ぶ。

1964年に『氷点』が朝日新聞に連載されて以来、全国的な『氷点』ブームが巻き起こった。『氷点』はテレビドラマ・映画化を繰り返し、『塩狩峠』『海嶺』も映画化されている。他の作品もテレビドラマ化されたことから明らかなように、彼女のストーリーテラーとしての実力は、ずば抜けている。

人間の罪を様々な角度から描いたものに、『氷点』『続氷点』『積木の箱』『ひつじが丘』『果て遠き丘』があり、神の愛を描いたものが『塩狩峠』『道ありき』(三部作)と言えるだろう。

「神の愛と赦し」と「人間の罪」を縦糸に据えながらも、ご自身の生涯のテーマである「人生の苦しみ」と真正面から向き合った作品『泥流地帯』や『細川ガラシャ夫人』『千利休とその妻たち』に加えて、「戦争と平和」また「国家と教育」といったテーマを横糸にした『銃口』『青い棘』『母』『天北原野』『岩に立つ』、クリスチャン人物伝の『愛の鬼才』『夕あり朝あり』『ちいさな先生物語』『われ弱ければ』、さらに『新約聖書入門』『旧約聖書入門』の未信者向けの聖書解説などなど、作品は広範囲にわたる。

小学生にも読める文章を心がけた彼女が目指したのは、作家だけでなく闘病時代から続けてきた読者との文通だった。毎日40通を超える読者からの悩みの相談に応えることこそ、彼女のライフワークだったかもしれない。しかし『海嶺』や『細川ガラシャ夫人』などの歴史小説や史実を踏まえた人物伝のために彼女は、取材活動や参考文献の精読などに決して手を抜かなかった。

彼女の文通を題材にしたエッセイ、作品執筆の逸話も含めた全作品は、彼女ならではの優しさ、きびしさ、真正直さ、ユーモアだけでなく、「まじめに生きることの素晴らしさ」「神が生きておられる証し」が、滲み出ているものばかりだ。

三浦文学は、60年代から90年代までの日本社会とキリスト教会の状況を全体的にバランスよく反映しているが、一方1999年に人生と執筆を閉じたので、当然ながら21世紀の変化には触れられていない。

しかし作品中には、キリスト教文化、聖書入門、祈り、キリスト者の生き方、死と復活の問題、結婚や性の問題、家庭や親子の問題、子どもと教育の問題、戦争と平和そして戦争責任の問題、政治や経済の動きへの警告、環境問題、生命倫理、病とどう向き合うかという課題、人生の苦しみという課題など、人として生きる上で直面するあらゆるテーマが扱われている。

三浦綾子 略年譜

- 1922(大正 11)年 旭川市に堀田鉄治・キサの第五子(次女)として生まれる。
兄3人、姉1人、弟4人、妹1人の10人兄弟姉妹
- 1939(昭和 14)年 旭川市立高等女学校卒業。4月に空知郡歌志内町の神威小学校教員に。(17歳)
- 1946(昭和 21)年 3月に教員退職。6月に肺結核発病し、以降13年間闘病生活を送る。(24歳)
- 1948(昭和 23)年 幼なじみ前川正と再会。交わされた書簡は1000通に及ぶ。(26歳)
- 1952(昭和 27)年 5月に脊髄カリエスを併発し、ギブスベッドの安静生活に。受洗。(30歳)
- 1953(昭和 28)年 10月にギブスベッドのまま退院し、自宅療養生活に入る。(31歳)
- 1954(昭和 29)年 5月に前川正死去。(32歳)
- 1955(昭和 30)年 三浦光世と出会う。(33歳)
- 1959(昭和 34)年 5月24日に三浦光世と結婚。(35歳)
- 1961(昭和 36)年 林田律子の筆名による「太陽は再び没せず」を主婦の友に応募し入選。(37歳)
- 1963(昭和 38)年 「氷点」執筆し、翌1964年7月に朝日新聞1千万円懸賞に入選。(41歳)
- 1964(昭和 39)年 12月9日より朝日新聞に「氷点」連載(1965年11月14日まで)。(42歳)
- 1982(昭和 57)年 5月に直腸癌手術。(60歳)
- 1990(平成 2)年 「銃口」を連載(「本の窓」90年1月号より93年5月号まで)。(68歳)
- 1992(平成 4)年 1月にパーキンソン病の診断を受ける。を書き下ろし小説「母」を刊行。(70歳)
- 1996(平成 8)年 7月、パーキンソン病の薬副作用による幻覚悪化。1998年頃まで執筆?(74歳)
- 1999(平成 11)年 5月「塩狩峠記念館」に出席。7月に高熱のために入院。10月12日に死去。(77歳)